様式第二号の十三（第八条の十七の二関係）

（第１面）

特別管理産業廃棄物処理計画書

2026年　5月　11日

群馬県知事
　　山本一太　殿



提出者　　〒370-0313
住　所 群馬県太田市新田反町町108-1

氏　名 株式会社ヨーユーラボ
代表取締役　市川洋児

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号　0276-20-8033

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の２第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社ヨーユーラボ
事業場の所在地	群馬県太田市新田反町町108-1
計画期間	２０２６年４月１日～２０２７年３月３１日

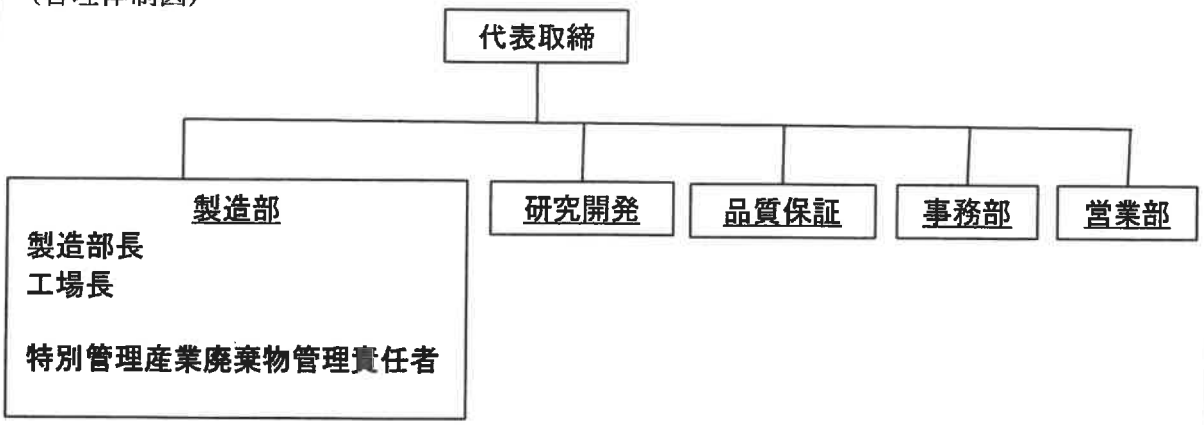
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	大分類：製造業　　中分類：化学工業
②事業の規模	売上高　１５００００万円
③従業員数	３７人
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	汚泥：ｶﾗﾑ精製工程後にｶﾗﾑから抜き出した充填物（汚泥）－[委託運搬]－[委託処分（焼却）] 引火性廃油：反応液の濃縮工程で生じる留出液（引火性廃油）－[委託運搬]－[委託処分（焼却又は混合）] 強酸：反応液濃縮残渣に水を加えて希釈した廃液（酸性水）－[委託運搬]－[委託処分（焼却）] 強ｱﾙｶﾘ：酸性ｶﾞｽ吸収用ｱﾙｶﾘﾄﾗｯﾌﾟで使用済みの廃液（強ｱﾙｶﾘ）－[委託運搬]－[委託処分（焼却）]

（日本産業規格　Ａ列４番）

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

（管理体制図）



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

【前年度（　　2025年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	汚泥
排　出　量	92.9　t	5.3　t

（これまでに実施した取組）

引火性廃油の分別による有価物化

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	汚泥
排　出　量	85　t	4　t

（今後実施する予定の取組）

引火性廃油の分別による有価物の比率を増やす

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

引火性廃油では分別により一部を有価物として処分している
前年度比では有価物の割合が上昇している

②計画

（今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
排出量の大きい引火性廃油を主に検討する。分別により回収再利用、焼却可能な物から熱回収-発電などの可能性を探る

強酸	強アルカリ		
5.7 t	3.8 t	t	t

強酸	強アルカリ		
4 t	3 t	t	t

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

【前年度（　　2025年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	汚泥
自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t

（これまでに実施した取組）

特になし

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	汚泥
自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t

（今後実施する予定の取組）

引火性廃油の分別により回収再利用の可能性を探る

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

【前年度（　　2025年度）実績】】

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	汚泥
自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t

（これまでに実施した取組）

特になし

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	汚泥
自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t

（今後実施する予定の取組）

焼却設備を設置することによる熱回収の可能性を探る

強酸	強アルカリ		
0 t	0 t	t	t

強酸	強アルカリ		
0 t	0 t	t	t

強酸	強アルカリ		
0 t	0 t	t	t
0 t	0 t	t	t

強酸	強アルカリ		
0 t	0 t	t	t
0 t	0 t	t	t

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状

【前年度（　　2025年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	汚泥
自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t

（これまでに実施した取組）

特になし

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	汚泥
自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t

（これまでに実施した取組）

特になし

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

【前年度（　　2025年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	汚泥
全処理委託量	92.9 t	5.3 t
優良認定処理業者への処理委託量	92.9 t	5.3 t
再生利用業者への処理委託量	t	t
認定熱回収業者への処理委託量	t	t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	20.5 t	5.3 t

（これまでに実施した取組）

強酸	強アルカリ		
0 t	0 t	t	t

強酸	強アルカリ		
0 t	0 t	t	t

強酸	強アルカリ		
5.7 t	3.8 t	t	t
5.7 t	3.8 t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t
5.7 t	3.8 t	t	t

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	汚泥
全処理委託量	85 t	4 t
優良認定処理業者への処理委託量	85 t	4 t
再生利用業者への処理委託量	t	t
認定熱回収業者への処理委託量	t	t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	35 t	4 t

（今後実施する予定の取組）

電子情報処理組織の使用に関する事項

【前年度（　2025年度）実績】

特別管理産業廃棄物排出量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。）　107.7 t

（今後実施する予定の取組等）

2023年4月より電子マニフェストによる管理に移行した

※事務処理欄

強酸	強アルカリ		
4 t	3 t	t	t
4 t	3 t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t
4 t	3 t	t	t

備考

1　前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。

2　当該年度の6月30日までに提出すること。

3　「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

4　「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

5　「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。

6　「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

7　「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トンを超える者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及びその理由を含む。）について記入すること。

8　それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

9　※欄は記入しないこと。